

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ)	授業コード	E002711
担当教員名	橋本 堅次郎		
配当学年	4	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	4
履修上の注意または履修条件	最終的な成果は卒業論文です。12000字以上の論文作成を目指します。		
受講心得	就職活動の時期ですが、欠席の場合は必ず事前に連絡をすること。		
教科書	特にありません。		
参考文献及び指定図書	卒業論文に関する文献。		
関連科目	経営関連科目、マーケティング関連科目		

授業の目的	就職活動と並行し、4年間の集大成として卒業論文を仕上げる。学内卒業論文発表で優秀な成績を収める。
授業の概要	卒業論文は最初のプランから途中経過、最終的な成果までゼミナールの中での発表をします。卒業論文作成にあたっては、資料の収集、論文のアウトラインの作成。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第 1 週 : オリエンテーション</b> ゼミナールⅣの進め方。受講の心得。卒業論文テーマへの動機付け。就職活動実施状況。	
<b>第 2 週 : 卒業論文テーマの検討</b> 今まで、ゼミナールⅡやⅢで学んだことをベースに卒業論文のテーマの検討を行います。この時期、地元の中堅企業、中小企業の最小活動が活発化します。	
<b>第 3 週 : 卒業論文テーマの検討</b> 卒業論文テーマについて仮決定をします。	
<b>第 4 週 : 卒業論文ゴールの明確化</b> 卒業論文テーマの構成の考えます。どのようなアウトプットを卒業論文で書き上げるのか。ゴールイメージを明確にして構成を作成します。	
<b>第 5 週 : 卒業論文作成の基本計画作成</b> 卒業論文のテーマについて基本計画を作成します。計画を作成することで多くの情報を整理し、要約していくことを学びます。	
<b>第 6 週 : 卒業論文作成の基本計画のブラッシュアップ</b> 卒業論文についての意見の交換。卒業論文についてゼミナールの中でプレゼンテーションを行います。発表に対する指摘をもらいます。	
<b>第 7 週 : 卒業論文作成 基本データ収集</b> 計画に沿って、卒業論文の基本データを収集します。ゼミでは個別に面談を行い、質問も受け付けます。図書館や学内のインターネットの活用をしてください。	
<b>第 8 週 : 卒業論文作成 基本データ収集</b> 計画に沿って、卒業論文の基本データを収集します。ゼミでは個別に面談を行い、質問も受け付けます。図書館や学内のインターネットの活用をしてください。	
<b>第 9 週 : 卒業論文作成 基本データ収集</b> 計画に沿って、卒業論文の基本データを収集します。ゼミでは個別に面談を行い、質問も受け付けます。図書館や学内のインターネットの活用をしてください。	
<b>第 10 週 : 卒業論文作成①</b> 卒業論文の作成に取り掛かります。基本データの整理。章立ての内容作成を行います。一か月をかけて卒業論文の概要を作成します。	
<b>第 11 週 : 卒業論文作成②</b>	

卒業論文の作成に取り掛かります。基本データの整理。章立ての内容作成を行います。 途中経過の報告・プレゼンテーション		
<b>第 12 週：卒業論文作成③</b> 卒業論文の作成に取り掛かります。基本データの整理。章立ての内容作成を行います。 途中経過の報告・プレゼンテーション		
<b>第 13 週：卒業論文作成④</b> 卒業論文の作成に取り掛かります。基本データの整理。章立ての内容作成を行います。 途中経過の報告・プレゼンテーション		
<b>第 14 週：卒業論文の成果発表①</b> 卒業論文の前期の成果を発表します。卒業論文の概要や作成状況を発表します。		
<b>第 15 週：卒業論文の成果発表②</b> 卒業論文の前期の成果を発表します。卒業論文の概要や作成状況を発表します。		
<b>第 16 週：期末試験</b> 期末試験は実施しません。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>	特になし。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	論文を書くということへの関心を持ち、卒業論文の作成に意欲を持ち作成にとりかかる。
<b>【知識・理解】</b>	設定されたテーマに対してへの情報収集や多角的な視点からの知識を得、理解することができる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	文章表現、プレゼンテーションによる他者とのコミュニケーション能力を育成。
<b>【思考・判断・創造】</b>	多くの情報から分析、要約、概念化していく力をつけ、社会や企業で発生する多様な事象への対応力を身に付ける。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。		20点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		40点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	テーマが明確であり、テーマに沿って論文の概要が明確であり、論文として完成されている。
発表・その他(無形成果)	